

福岡県立山門高等学校



同窓会だより

2009.3.1

第12号

山門高等学校 創立96周年 **OBを迎え記念講演**



テーマ
「世界を知る」



講師 日本オリンピック委員会常務理事

板橋一太氏

(昭和38年 山門高校第15回卒)

昨年10月31日、山門高校体育館にて創立96周年記念行事として、日本オリンピック委員会常務理事 板橋一太氏をお迎えし「世界を知る」と題し講演会を実施いたしました。

講演では板橋氏が文部省在職中に経験されたことの中で、サッカーワールドカップの日本への誘致活動やアメリカでの大規模な科学施設プロジェクトに携わってこられたことなどを話されました。また最近における、開発

途上国が国際的な大会を積極的に開催しようとするなか、昨年行われた北京オリンピック競技において、様々なスポーツ選手や競技にまつわる話を、映像をお見せいただきながら興味深く話していただきました。そしてもっと世界のことに関心をもってもらい、世界的に通用する人間になってもらうためにも、受験勉強以外のところで多くのことを学んで欲しいと語られました。

今、思う事



山門高校同窓会
会長
板橋 元昭

未曾有の世界規模の経済不況、金融不安が広がる中で新しい年を迎えました。山門高校同窓生の皆様にはそれぞれのお立場で元気に逞しく歩みを始めておられることと存じます。

昨年は昭和六十一年卒業生の担当により例年通り五月三日（憲法記念日）に平成二十年度総会が行われましたが、皆様のご協力のお陰で大変盛會裡に終えることが出来ました。又金美齢先生の記念講演はとて好評でした。そして福岡山門会（福岡支部）総会は四月十二日（土）に福岡市西日本新聞会館国際ホールに於いて、関東支部総会は十一月一日（土）に東京九段会館に於いて開催していただきました。お世話をいただいた皆様には大変、ご苦労をおかけしましたが多くの皆様のお集りのもとに楽しい会ができました。衷心より御礼を申し上げます。

山門高校の歴史は明治四十五年（一九一二年）に始まり歴代三十一名の校長先生を迎えていますが、昨年四月初めて同窓生の校長先生が誕生しました。

第三十二代校長井上正明先生であります。本校を昭和四十七年に卒業された新進気鋭の校長先生で

すのでこれからの活躍を期待したいと存じます。

新春早々の一月二十日にアメリカ第四十代オバマ大統領の就任式がありました。就任演説の中に「未知の運命を自らの手で形造れと神が呼びかけていることを我々は知っている、これが我々の自由の意味であり信条である、これから六十年前ならレストランで食事をするのが出来なかったかもしれない父を持つ男が最も神聖な宣誓を行うためにあなた方の前に立つことが出来るのだ」という言葉があります。

冒頭に世界規模の経済不況、金融不安と述べましたが、およそ五十年前中央から遠く離れた地方の福岡県立山門高校の一生徒に過ぎなかった二人の同窓生が今、中央政界と日本銀行にあつて、この二つの課題を抱え世界を相手に大活躍しています。一人は景気回復を最重要課題として取組んでいる自由民主党第二十三代総裁麻生太郎氏（第九十二代内閣総理大臣）を支える党四役の重責を担う古賀誠氏（昭和三十四年卒）であり、一人は世界の金融情勢を見据え日本の金融を取り仕切る日本銀行第三〇代総裁白川方明氏のもと九名の政策委員会の審議委員として日夜奮闘中の亀崎英敏氏（昭和三十七年卒）であります。ここに紹介した二人の同窓生の見識や言動は現在の日本の浮沈かわるや云つても過言ではありません。百年に一度とも評される現在の不況と金融不安の中で世界を相手

に日本の命運を担って活躍している同窓生がいることを私達は学び舎を同じくする仲間として誇りに感じると同時にしつかり見守つてゆきたいものだと思います。終りに同窓生の皆様の御健勝を祈念しご挨拶いたします。

夢情熱 感動



山門高校
校長
井上 正明

同窓会の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。卒業から同窓会の皆様方には本校生徒の育成及び教育活動の充実発展に大いに寄与していただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、本校は平成二十四年には創立百周年を迎えます。生徒及び職員共にこれまでの山門高等学校の歴史と伝統を継承し今後に発展させるべく新たな学校創りに邁進をしております。平成十九年に発刊された「山門の魂百年」から先輩諸氏の歩みを学びながら、百周年以降の山門高等学校の二百周年につなげるための学校の教育活動についてその方策を具体化させます。最近、学力低下の問題やモンスターズベアレンツの問題がいわれられている中で、学校教育とは何かという点について考えます。なぜ学校には校則や授業があり、クラスの子は四千人もいて、掃除の時間や部活動の時間があるので

しょうか。

なぜならば、学校教育は「学びの場」であるからです。学校で生活をする場合、遅刻をしない、授業を聴く、昼休みを過ごす、部活動をする、クラス数四十名で生活をする、清掃活動をする、学級（ホームルーム）活動等のきまりや活動、そして組織で学校生活を営みます。このように学校に授業があり各教科の内容が指導されている理由は、次のとおり三つあります。

まず、学校の授業では「学力」を身につけさせるのです。学力とは、学習指導要領に述べられている各教科・科目で目標としている力をいいます。勿論、基礎学力は「読み、書く、算」です。

次に、学校にクラス四十名の仲間がいます。担任の先生もいます。人間の集団からクラスが編成されています。その理由は、学校は「人間関係を学ぶ場」だからです。仲間良くすることや協力することを学ぶと共に、いかに相手を思いやり、理解するかというのを学ぶのです。担任がいるのもそのためです。大人とどのようにつきあうのか。クラスの役員がいるのもそのためです。同僚と協力をするためにはどのようにするのかを学ぶのが学校です。

第三に、「生活の仕方を学ぶ」のです。生活の仕方で大切なのは、挨拶、言葉使い、時間厳行、清掃活動等があります。学校のきまりに遅刻をしない等があるのはそのためです。また、朝のホームルー

ムや授業の開始時に挨拶をするのもそのためです。

このような学校の基本的な在りように加えて本校に対する地域の関係者や保護者の一層の期待に応えまた学校教育を飛躍させるための今後の施策は次のとおりです。

まず第一に新入生の学習オリエンテーションを実施します。高等学校の授業に慣れるための授業を実施して「わかる。できる」という充実感を味わわせる授業を実施したい。次に、年に一回芸術鑑賞を実施します。一流の芸術を一流の場所で見たい。三番目に、九州大学等の授業を受講できる「二日大学生」を実施して進路意識の高揚に努めます。

先生が生徒に対して、生徒の知的ポテンシャルに対する敬意と期待があつて学校は飛躍する。すばらしい学校にはすばらしい先生とすばらしい生徒がいます。伝統ある学校にはすばらしい先輩とすばらしい後輩がいます。今後ますますの同窓会の発展と活躍を祈念いたしますと共に本校の教育の発展のために一層の御指導をお願いいたします。



同窓会総会を終えて

前年度行委員長 六十二年卒 松尾 良介

まず最初に、同窓会総会の開催におきまして、井上校長先生をはじめ関係職員の皆様及び在校生の皆様、そして山門高校同窓会板橋会長をはじめとする同窓会役員及び関係会員の皆様に、心より御礼申し上げます。県立高校の統廃合がなされるなか、こうして同窓会総会が盛会に終えることができただのも、母校「山門高校」があるおかげだと、改めて存在の大きさに気づきました。そして校長先生をはじめ卒業された、多くの同窓生の母校に対する愛情の深さというものに感激いたしました。その甲斐あつての六十一年卒の私たち実行委員会があるのだと感じました。実行委員会を代表いたしまして、皆様のご支援ご協力に改めて敬意を表しますとともに、衷心より感謝申し上げます。



をテーマに掲げ、開催いたしました。第一部の総会におきましては、役員の皆様のご協力ももちまして、スムーズな進行のもと、滞りなく議案が審議されました。第二部の講演会では金美静氏をお招きし「次代に伝えたい美しい日本の心」と題しご講演いただきました。台湾出身でありながら誰よりも日本を愛され、日本人のすばらしさを誰よりも感じ取っている方だなと感じ、また、我々日本人が日本の誇りや美德を忘れがちになっていくというのを改めて気づかされました。一番印象に残っていることは、イケメン三人が講演会の打ち合わせにきた、ということではなく、同窓会総会の開催運営を卒業した学年同窓生が毎年替わりばんこで母校の体育館を使って行われていることは、大変すばらしいことであり、先輩たちが受け継いできた伝統と歴史が脈々と次世代へと伝えられていくことが、これぞまさしく山門高校同窓生の誇りであり、日本人の心に通じたことであると熱く語っていました。皆さんの心の中にも大きな気付きがあったのではないのでしょうか。

さらに第三部の懇親会では金先生も参加していただき、サイン本の販売があつたという間に売り切れてしまい、金先生の講演のすばらしさを物語っているようでした。乾杯が始まると学年同士また学年を越えた同窓生の会話と笑顔が飛び交っていました。そんな光景を見てみると、私たちが嬉しく思



えしました。

思い返せば前年度の実行委員長からタスキを受け継いで以来、地元同級生を中心に実行委員会を立ち上げ、地道に準備を進めてきました。何もわからない状況からスタートではありましたが、先輩がたや高校の先生がたからアドバイスをいただきながら、メンバーとともに創り上げることができ、本日に嬉しく思います。当日には120名以上の同級生が集まって一致団結してできたことに、同級生の絆の深さを感じることができました。今回、またと経験するこのできない大役を担わせていただきましたことに、心より感謝申し上げますとともに、同窓会総会が今後も永遠に続きますよう、また平成二十一年度総会のさらなる発展をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

山門魂の伝承者

株式会社エフエム福岡 代表

昭和三十八年卒 藤丸 修

山門の思い出

高校時代（昭和三十八年卒）の三年間、数学の大坪永三先生に担任して頂きました。先生の進学指導面での取組姿勢は凄まじかったと思います。先生の口癖は、「このクラスで（四十名）修験館に合格できるのはたったの四名だ。卒業する頃には全員が修験館の生徒にひけをとらず、一流の大学に合格できるレベルになろう。そのためには俺も努力するから、君たちも頑張るのだ」ということでした。二年の一学期まではそうでもなかったのですが、二学期以降は、厳しさが急速に増してきました。当時、校舎は木造で、冷暖房もなかったが、暑さにも、寒さにも負けず、正課以外に早朝一時間、放課後は真っ暗になるまで勉強させられました。勿論、先生はつきつきりでした。益、正月もありませんでした。クラブ活動等ももつての他と気合いを入れられたものです。そういった厳しい指導もあつて、卒業時には大部分の級友がほぼ希望の大学に進学できたと記憶しています。「伝習館・八女何するものぞ」と先生と一緒に大いに氣勢をあげたものです。その後大学を卒業し、社会人となり、「山あり、谷あり」の人生の中で、苦しい時には、大坪学級時代を思い出し、明日に向けてのエネルギー源になっています。今はよき思い出となっています。こうしたこともあり、生涯の友として交友を続けている友人は高校時代の友人が最も多く、それだけ山門高校に愛着を持っていると自負もしています。最近では同窓会活動にも多少は力を入れています。七年前に有志を募り「福岡山門会」を立ち上げ、毎年四月には盛大な総会を開催しています。福岡には多くの高校の同窓会支部があります。筑後地区の有名校も支部同窓会を結成し、活発な活動をしているところが多いのですが、この面でも伝統校である「明善伝習館・八女」等に負けないよう、「福岡山門会」を発展させていきたいと念じています。同窓生皆様のご協力、ご支援を直しくお願致します。

平成二十一年度 同窓会総会に向けて テーマ「夢に向かって」

自分らしく生きるために



実行委員長
昭和六十二年卒
井口 秀成

新卒の頃、同窓生の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平成二十一年度の同窓会総会は、私ども昭和六十二年卒業生が担当させていただきます。卒業から二十余年、四十歳という人生の節目の年に、今日まで脈々と受け継がれてきたこの歴史と伝統ある山門高校同窓会の総会運営という大役を引き受けさせていただいたことに、身の引き締まる思いです。

学生時代にお世話になった学び舎に、社会人の礎となった山門高校になんとか返還してできないか。私たちは今、地元に残っている同級生を集い、昨年の五月から山門高校同窓会館で総会に向けて話し合いを行っています。

友達とは何なのか、幼なじみの友、仕事を通じて知り合った友、同じ趣味での友、いろいろな友がありますが、私はこの同窓会のお世話を担当させていただきあらためて感じました。それは、多感な高校時代を同じくクラスで学び、クラブ活動で泣き笑いを共にした同級生の存在です。当時あまり深くは考えなかった友の存在ですが、三年間を一緒に過ごした同級生が

久々に顔を合わせ、今年の同窓会総会を成功させようという一丸となつて個々の力を結果させています。私は実行委員長をやらせていただいているが、本当は同級生一人ひとりが実行委員長だと思つていまして、「遠くにいるけど少しでも力になれたら」という気持ちで頑張っています。しかし、これは私たちの代に始まったことではありません。先輩方から脈々と受け継がれた、他

のどの高校にも真似できない素晴らしい伝統だと誇りに思っています。



▲ 掛布 雅之 氏

話が変わりますが、毎年、その年を漢字一文字で表すのが恒例となつていますが、昨年の感じは「変」でした。振り返りますと、昨年はアメリカに端を発した世界的な不況やそれに伴う雇用の不安、また食品偽装問題や無差別的な犯罪など、必ずしも明るいとは言えないニュースが多かったのではないかと思います。先述しまし

たとおり、実行委員会では久しぶりに再会した仲間が集い、旧交を温めながら準備作業を進めています。ここでもこの社会的影響は無縁ではありません。

そこで、このような暗いニュースを払拭し、希望を持って生きて行くメッセージになればという願いを込めて、本年の同窓会のテーマを「夢に向かって自分らしく生きるために」といたしました。また、講演会におきましては、元阪神タイガース掛布雅之氏のお話を伺うこととしています。掛布氏は、阪神タイガース入団当初はドラフト6位と必ずしも高い評価ではなかったそうです。それでも、周囲の人から、努力の人、練習の虫、と評されるほど努力を重ね、本塁打王を3回、ベストナインを7回、ダイヤモンドグラブ賞を6回受賞されるなど、ミスタータイガースと呼ばれ一世を風靡されました。現在は、プロ野球解説者、タレントとしてご活躍中です。掛布氏からは「一球入魂にかけた私のプロ野球人生」と題して、体験談を語り交せながら、希望を持つて生きていくための熱いメッセージを伝えていただきます。どうぞ、ご期待ください。

最後になりますが、山門高校同窓生のみならず、今後とも社会のあらゆるところで中心となつて活躍されるところを祈念するとともに、来る5月3日の同窓会総会に一人でも多くの方に足をお運びいただきますよう、担当学年一同心よりお待ちしております。

進路部より

進路指導主事 中村 辰男

同窓会の皆様には、日頃からご支援・ご協力を賜り感謝申し上げます。

本年度、山門高校出身で初めて本校に井上校長が赴任されました。このことは、平成二十四年に百周年を迎えるにあたり非常に心強いことでもあります。また、今後さらに百五十年、二百年と歴史を積み上げていくためには、生徒全員が「第一希望での進路実現」を達成できるようにしていかねばなりません。

校長の母校に対する熱い思いの下、教職員が一人となりあらゆる手立てを駆使し、本校発展のため全力で日々の教育活動に邁進しているところでもあります。

本年度は、ここ数年の生徒の努力が認められ、同志社大学より指定校推薦枠をいただくことができました。進路状況は、二月二十日現在で国立大学(推薦)一名、防衛大五名、公務員四名等、着実に実績を上げています。これからの国公立大入試も良い結果が期待されます。



福岡山門会 総会のご案内

●名称.. 福岡山門会総会・懇親会
●日時.. 平成二十一年四月十一日(土) 午後二時半より

- 場所.. 福岡国際ホール (博多大丸最上階16F) ☎092-(72)8855
- 会費.. 男性七千円 女性六千円
- 問い合わせ先.. ☎092-5249950 鶴マトリックス 賢一 (昭和四十一年卒)

平成20年度卒業生 (平成21年3月卒業)

同窓会クラス役員

	男子	女子
1組	西村 和晃	島松美由紀
2組	久賀 有壽	江崎輝美子
3組	古賀 秀彰	○只熊 理奈
4組	谷川 智	北原世奈巳
5組	○野口 耕平	福山 えみ

(○は学年代表)



平成16年度制定の山門高校エンブレム
清水山のさき車伝説がモチーフ

編集室より
本年の会報12冊は、昭和61年卒の実行委員会が編集いたしました。快く寄稿してください。感謝いたします。